

あなご愛人

趣味は、道楽ではない

吉 永 洲 神

吟詠は、芸術の分野では邦楽に属しますが、別の分野では趣味に該当すると思います。然し趣味は、趣味でも趣味以上の何かがあると思うのです。親の前でも子供の前でも冠婚葬祭何処でも出来るのが吟詠であります。

悲しい時は、力を与えてくれる、嬉しい時はその喜びを倍加してくれる。即ち吟詠は、人生のバックボーンであると思います。吟道に勤しむ者に定年はありません。生涯現役であります。「貴方は定年ですから、明日から吟詠をやってくださいません。」なんていう事ありません。

趣味は道楽に非ず。生活にゆとりを齎し、人生を豊かにする触媒であるといわれます。吟詠そのものを通じて、Aという人物が、Aという人物に変身するのです。然も吟詠そのものは変わりません。これが触媒という化学変化作用に準える所なのです。日本人でありながら日本字とはいわず漢字という漢詩の詩文に親しむ私共は、漢字そのものを国語として大事にしなくてはなりません。漢字そのものに味があるのです。漢字を大事にしましょう。

最近の新聞紙上に掲載された印象的ことがらを記します。

一、文化審議会の答申―ませ書きの禁止

こっ折・心ぱい・習かん・階だんは、総て漢字で表し、かなをふるふること。

二、数学者 藤原正彦氏の提言

国語こそ情緒を培うものだ。

三、講談社（祖国と国語）

国語は、総ての知的活動の基礎であり、倫理的思考を育てるものである。

四、日本漢字教育振興会

漢字は、心の珠を磨く道具である。戦後日本の国語を、混乱せしめたと不評をかった当用漢字の処置に困り一策を講じて、今度は強制ではなく基準ですと公布した常用漢字（昭和五六年十月一日内閣告示第一号）の時代です。大いに漢字に親しみ愛用するべき時代です。吟道に勤しむ事により、自然に漢字に親しみ、漢字を覚え且つ、心が洗われるものです。背筋を伸ばし、胸を張り腹の底から吟ずる事により、必然的に深呼吸をします。深呼吸は、健康に繋がります。安心して吟道に邁進しようではありませんか。

(理事長)

会報 第三十三号

発行日 平成十六年五月十六日
 編集人 南洲吟道会広報局
 発行人 理事長 吉 永 洲 神
 〒 六五〇〇五 東京都中野区白鷺二―三四―五
 (社) 日本吟道学院南洲吟道会
 ☎・FAX 〇三―(二三三三〇) 七〇〇九

創立30周年記念の会について御礼

好天に恵まれて、(社) 日本吟道学院ご後援の下、無事且つ、盛会裡に開催できました事は、真に慶ばしく実行委員・当日の各係役員、前夜の仕込みにお手伝い下さった方々、そして参加会員の皆様の御蔭と、厚く御礼申し上げます。有難うございました。

本会独特の充実した内容の催しであった。そして何より暖かい心で下されたと、お客様から評を頂きました事をご報告し、感謝の詞と致します。

(理事長)

本部だより

平成十六年度春季昇段審査 結果報告

四月十八日(日)本会春季昇段審査会が、中野区白鷺会館に於て肅々と実施され、次のとおり決定されました。

なお、千葉地区審査会は、前日の十七日(土)に船橋市民文化ホールにて実施されました。

一般の部							少年の部		計
十段	九段	皆伝	四段	三段	初段	二段	初段	二級	
一名	一名	四名	七名	二名	一名	三名	六名	三名	
範	教	総	七	奥	六	五	中	三	
師	授	伝	段	伝	段	段	伝	級	
三名	十一名	二名	四名	四名	二名	六名	六名	名	
	計	総本部審査委員		計	師	準	八	計	
	三十四名	会をへて昇段		五十三名	範	師	段	名	
					八名	範	十		
						一名	名		

(指導局)

秋季審査会は、16年度事業予定を変更して、次のとおり実施する予定です。

(新) 十月十日 (日) 午前十時―十七時
 (旧) 十月三十一日(日) 同右

☆ 次の方々が、平成16年度正会員に加入されました。

ご協力有難うございます。

- 一、篠 房城さん(若草)
- 一、吉木耐城さん(習志野会第一)
- 一、森 仙水さん(洲神会第二)

☆新入会員ご紹介

次の方々が入会されました。どうぞよろしく!!

- 川崎美津子(あやめ第一) 会員No.六九六(16・1・15付)
- 〒一七四〇〇七六 板橋区上板橋一四三一―四〇三
- ☎〇三―三五五〇―六五五八
- 佐野 雅也(拓大) 会員No.六九七(16・2・4付)
- 〒一八五〇〇一三 東村山市栄町二―三七―一四〇五
- ☎〇四―一三九三―四六五七
- 杉本 陽子(いずみ会平松) 会員No.六九八(16・4・1付)
- 〒一八五〇〇二三 国分寺市西元町四―二―二二
- ☎〇四―二二三五―四七五四(F兼用)
- 脇岡 宏(洲神会第二) 会員No.六九九(16・4・16付)
- 〒一七九〇〇七三 練馬区田柄二―七―二
- ☎〇三―三三九三―八二〇九
- 大塚 厚子(若鷺) 会員No.七〇〇(16・5・14付)
- 〒一六四〇〇一一 中野区中央五―四八―四四〇三
- ☎〇三―三三八一―四五五四(F兼用)

☆住所変更のお知らせ

次の方が、所属と住所を変更されました。お手持ちの名簿を修正または追記して下さい。

- 山内 泉祥(洲神会第一・山内教場指導者)
- 〒一九〇〇〇一三 立川市富士見町七―三二―四四
- レガリヤ一三〇六
- ☎〇四―二五二二―二三五九

加藤 孝龍(船橋)

- 〒二六三〇〇五三 千葉市稲毛区柏台一―二二―四〇四
- ☎〇四―三二五五―八四一七

☆役職変更

指導局新村紅龍指導部長が体調不調のため辞任されましたので、後任に湊山牙龍さんが同局指導部長となられました。

新村さん、永い間ご苦労さまでした。
湊山さんよろしくお願いいたします。

詩吟による気力の養成

岩坪 博 龍

私は九十歳までは非常に健康に過ごしていた。七十歳になったとき、同じ七十歳で早死にした二人の兄の分も取り返そうと、万歩計に依る毎日約一万歩の徒歩運動、詩吟に依る気力の養成というを開始したのである。

九十歳までは極めて順調に経緯したのであったが、卒寿になると共に体調を崩し始め、第一回の入院は前立腺癌と腰骨癌とで約一週間であったが、今年二回目は五月十日から六月二十日までの四十日間に及び、病名は敗血症と肺炎とされ、初めの三日間は正に死神との生死を賭する烈しい闘争の連続であった。二日目には家族一同病院に集まり、一人

ひとりが遺言めいたことも聞き、今夜はもう最期であろうと確信して帰宅して行ったものである。

ところが五日目位から痛みも頓に薄くなり体調も急に回復してきた。病院の適切な治療の結果であろうけれども、正に奇跡とも思われる位で、軍人時代からの私の幸運というものの御蔭でもあろうかと神に感謝している次第である。

六月二十一日退院後既に五ヶ月、簡単な治療が続いているが、体調も殆ど回復し喜んで居る次第である。(本会顧問)

岩坪顧問は今年九十四歳。

平成十五年、旧陸軍将校団機関誌に掲載された記事をご了承を得て転載

正会員大会に出吟して、あれこれ思う事

三菱吟道部 本田 龍 晃

この三月に行われた正会員大会に参加した際に、本会の機関紙の表題について、投稿依頼を広報局の角野さんから受けその内容にそった形で書き綴ってみようと思つて筆をとつて見ました。

この数年、この大会に参加し体験した非常に嬉しかった事。平成十年六月の大会で『舟中子規を聞く』を吟じましたが、それ迄全く面識も無かった、現総裁の小早川先生に突然、「今日の貴方の吟はとてもよかったね。」とお褒めの言葉を頂いた事でした。中央の大会にはあまり縁がなかった私にとつては本当に感激しました。

平成十一年六月の『易水の送別』を二本で出吟した折、高々音の所も無難にこなし一礼して伴奏の小野寺先生の席を通ろうとした所、立ち上がられ、とても優しい笑顔で小さい拍手を下さいました。あのシーンは今でも絶対に忘れられません。先生としては、こんなに高くて果して高々音の所が上手く出来るのかなあと心配して居られた所、下手乍ら出来たので安堵なさったからでは無いかと思つたりしています。本当に嬉しいことでした。

平成十三年三月の大会には湊山さんと『山中の月』を連吟で出吟して自分ではまあまあ出来たのだのかなあと思い乍ら自分の席に戻りました所、早速に理事長先生から私の着物の扇子が出すぎていたと注意を受けて、早速吾が身を良く見れば、全くご指摘の通りで赤面の至りでした。吟以外にも大切な事があるのだよと教えて下さったものと思以後、こんな事のないようにしようと思省しきりでした。

以上の例ですが、私は日頃、心がけている事は、その場で直ぐ対応してあげる事が絶対に効果があると信じて、行動しております。特に大きな大会で見事栄冠を得た方には、それを知り得たら、直ぐにお祝いの言葉を差し上げるようにして居ります。

「敬天愛人」言葉の意味は良くわかっていても、ともすると実行が伴わないのですが、私はこうした行動もあるのだと思ひ乍ら常日頃から実行して居ります。

十年経ってもまだ新人

龍陽会第二教場 角野明城

この度詩吟名人会の青壮吟士登竜門コーナーに出させていだきました。コンクールでも吟士権者選考の予選でもない、とにかく成績が付かないのだから気楽に普段のお稽古の発表のつもりでやればいいと自分に言い聞かせながら練習してきました。でも、私は音感が悪くあがると音がわからなくなってしまうのであがらないで落ち着いて吟じ出せることが課題です。

さてさて本番、舞台に上がりマイクを調節し、吟題を言いました。その後尺八の音が聞こえませんか。あらあらと思っっているうちに、「鞭声 肅々：」勝手に声を発しています。なんだか尺八の先生が音を探っておられます。「本数が違うんだ！」と思ひながら吟じるしかありません。あゝまたやっちゃった！

詩吟をはじめて早や十年になります。子供の頃から音楽の苦手な自分が詩吟を習っていることがおかしいかな。娘には「早く見切りを付けたら！時間がもったいないよ！」なんて厳しい言葉をかけられながらお稽古に通っております。なんなんだろう、この魅力は？

自分でもまだ答えが出ておりません。他の趣味の世界なら十年経てばそこそ上手になったり、人から「すごいね！」って云われたり、自分でも納得できるものをつかめたりします。でも私の吟は十年経ってもまだ新人のようです。人より自分は上達するにも時間がかかり、時には落ち込みますが、また火曜日にはお稽古にでかけています。ひよっとすると探っても探っても先が見えてこないことにわくわくしているのかも知れません。

私は今五十一歳です。詩吟の世界では若手と言われ、新人類かのような目で見られているのを時々感じます。でも、人生の先輩・吟の先輩に囲まれいろんな勉強をさせていただいております。ジュネレイションギャップのある方達との触れ合いもまた私には魅力の一つなのかもしれません。洲神・龍陽両先生には日頃から惜しみないご指導を頂き感謝いたしております。ゆっくりですが今後もお稽古に精進してまいりますので両先生はじめ皆様どうぞよろしくお願い致します。

こんなつたない文章を書く角野が広報部のお役目をさせていただいております。南洲吟道会の皆様安心してごんどん原稿をお寄せいただければ大変ありがたいと存じます。原稿お待ちしております。そして会報に対してご意見・ご感想があれば気楽にお電話下さいませ。
(広報部長)

兄よやすらかに

相川 廣

※第三十二回慰霊祭に出席して

(註) 相川様は、男四人兄弟の末っ子ですが、上の三人は戦死されました。すぐ上の兄(治三郎少尉)は万世

飛行場から出撃し、川辺上空で米グラマンと空中戦の末、戦死されています。

小生、飛行第五十五戦隊・故相川治三郎の弟で現在七十三歳です。

第三十二回慰霊祭出席に際して奉賛会・平和記念館の方々の暖かいお心づかいに対し心よりお礼申し上げます。

慰霊祭にぜひ出席したいと思いたったのは、案内状と一緒に奉賛会事務局より、昭和二十年六月三日当日のこと、川辺中学校(旧制)二年生であった柿本常任理事が「相川少尉の飛行機が墜落した場所を今でも覚えてる。もしご遺族の希望があれば、ぜひ案内したいとの申し出を受けている。」との文面が小生の心に強く迫りました。

「治三郎兄」との思い出は、小生が東京の中学校を、数校受けたのですがその都度末っ子の小生に付き添って励ましてくれました。しかし全部失敗しました。兄は何も言わなかったのですが、がっかりしたことと思います。

その兄の愛機の最期の場所を案内してくださる方がいる。よし行こう。行って兄にお詫びしたい。今となってはそれしか出来ない・矢も楯もたまらず慰霊祭に参加しました。

柿本常任理事の案内で慰霊祭前日、加世田バスセンターから川辺町の現地へ直行しました。現地は山の麓の窪地で、花と線香をあげ合唱しました。

「サブちゃん、やっときました。」と万感胸に迫り、あとは涙が溢れてとまりませんでした。
涙が溢れてとまりませんでした。

慰霊祭当日は、事務局の特別の計らいで、「加世田の地に眠る御霊に捧ぐ。」と題して「同期の安」と吟詠させて頂きました。

「治三郎兄：やすらかに」合掌

註：萬世特攻慰霊碑奉賛会機関紙掲載の記事をご了承を得て転載。筆者は、前中町会幹事長

鶯と吟詠

三菱吟道部 佐藤峰 祥

そろそろ山桜が峰みねを色どる頃になると私は休日朝が待ち遠しくなります。

我家の前を流れる小川を十五分程上った上流は都塵を離れた深山幽谷の趣のある峡谷となっています。

谷筋の尾根の手前に、かえで・山桜・檜等の雑木に囲まれた台地があり、この季節になるとそこは鶯やイカルやヤマガラ等の囀りに満ちており、ちょっとした桃源郷の趣となり、私のお気に入りの野外練習場の一つです。

ここで私が練習を始めた時、突然に響き渡る吟声に小鳥の囀りは中断し、蛮声のみ谷に木霊します。下手な吟声で森は一瞬にして静寂、こずえを渡る風の音だけが残っています。委細かまわず吟じ続けていると「カーカー」とけたたましい鳥の声、何事ならんとあたりを見回してもそれらしい異

変は見当たらない。どうやらひどい吟声に鳥も縄張りに敵が侵入したと勘違いしたようです。

大声で森の環境をみだすのも自然環境破壊になると反省し、以後は谷間の雰囲気に気配りをしながら練習をしました。その内鳥も馴れて騒ぎに來なくなりました。

それよりもっと驚いたのは吟題や吟調によっては鳴き止んでいた鶯が私の吟声と競うように囀るようになったことです。まさかと思われるかも知れませんがどうもそんな気がするので。

今年も川向うの竹藪で鶯が鳴きだしました。その声にさわられる様に休日の朝早くから二階堂川上流の獅子舞の谷に向かいます。

合掌

詩吟名人会に参加して

三菱自動車吟道部 佐藤 廣城

二月十九日浅草演芸ホール東洋館の紅白ペア吟詠対抗戦に出演させて頂き、また多くの方々の応援も頂き誠に有難く感謝しております。この場をお借りして厚くお礼を申し上げます。

さて、私が詩吟を習い始めた動機は、六十の手習と健康に良いと云うことでした。今年で八年目となります。特に私にはあがり癖と絶句する癖がありまして、なかなか直りません。従って、機会があれば出来るだけ多くの大会に出させて頂き場慣れをしようと努めているところであり、まず、

以前同じ大会に平松玉祥さんと出演させて頂き私の吟が未熟で足を引張ってしまい迷惑をお掛けしたことがありました。今回はこれを肝に銘じ練習に励みました。しかし詩を吟ずれば吟じるほど、奥が深くまだまだの感がして参ります。節調だけでなく、口の開き方や正しい発声、複式呼吸の吸い方止め方、正しい読みの一問一や余韻の響かせ方など、学ぶことが沢山あります。詩情を良く理解し聞く人に感動を与えられるようになるのが目標ですが先の話です。それでも挑戦して行くものがあると云うことは、生き甲斐にもなりまた将来楽しく幸せな人生を得ることが出来ると信じてやっています。

始めた頃は、自分の出番が近づく程に不安が募り、頭が真っ白になってしまふのでした。絶句するのは詩文の読み方が足りないと壁に詩文を貼り毎日読んでいます。でも緊張すると止まってしまうのです。切り方を間違えたと思ったり、気にしていたところがうまく出来たなどと思ったり途端に次の句が出てこなかったり、些細なことに気を取られて絶句してしまふのです。回を重ねるに従い幾分落ち着けるようになりましたが、まだまだです。今回絶句しないようにと詩文のみに気を取られてしまふ、詩情というものを忘れていました。

終ってから、菊田正龍さんに「間の取り方」が足りなかったとご指摘を受け、なるほどと納得、一つ勉強をしました。

紅白ペアとして一緒に出る予定の内山陽祥さんが病気で出られず誠に残念でしたが、代わりに永田遊祥さんが出演して下さいました。私の出来がいまひとつだったので、結

果は四位におりましたが経験をまた一つさせて頂きましたので、感謝しております。有難うございました。

突然の紅白ペアコンクール出場

龍陽第一教場 永田 遊祥

詩吟名人会の呼び物「紅白ペア吟詠対抗戦」は、佐藤廣城さんと内山陽祥さんの出場が決まり、私は勿論応援に行くつもりでした。ところが、本番六日前になって、内山さん体調不良により代打で出場して欲しい旨、洲神先生よりハローコールを頂いた。私が尊敬する先輩、内山さんの代わりなど恐れ多く、もっと他に適切な方がいらっしゃるのでは？と思ったが、「引き受けてもらわないと廣城さん一人では失格になる」とお聞きして、途方にくれる思いながら引き受けてしまうことになった。

お稽古は無情にも火曜日一回だけである。「人助けですか。」龍陽先生の一言に妙に納得させられて、吟題を決め、四日後が本番当日である。応援だけのつもりだったので、土曜の午後は他の会合も重なって出先から浅草へ向かうこととなった。二月二十一日は冬とは思えない陽気で、歩くと汗ばむほどの暑さである。息せき切って演芸館に駆け込むと、今や遅しと待ち構えていらした洲神先生に声出しを兼ねてご指導を受ける。南洲吟道会のホープ、あの美声の持ち主、内山陽祥さんの代わりなど勤まる訳もないが本番が迫ってくる。今年是新趣向で、と司会者の説明がある。まず、ペア揃って登場し男性が先に吟じ、次に吟じる女性のためにマイク調整を行い退場は二人並んで、と今までにないスタイルである。舞台の袖に各会のペアが参集し、一番から順に出場となった。出番待ちの緊張感はいつものことから、司会者の名調子も手伝って、客席から楽しそうな笑い声が聞こえるたびに、出番待ち組もナニ？ナニ？とばかりに首を伸ばす。舞台近くの方から「腕を組んで退場した」などと伝わってきて、袖幕にも和やかな空気が流れる。いよいよ十番目、我が南洲吟道会の番が来た。二人並んで礼をすると掛け声も掛かり、例年の如く前の席にズラリと陣取る大応援団が有難い支えとなる。廣城さんの美声が響き終り、私の番となった。昨年と同じ「黄鶴楼にて孟浩然が広陵に之くを送る」であったが、情景を思い浮かべながら新しい気持ちで心を込めて吟じた。結果は四位ということで、大・中・小いずれのカップも手が届かなかった。「力不足でごめんなさい」と廣城さんに謝って、私の代打出場は幕を閉じた。

洲神先生、龍陽先生はじめ応援の方々には心より感謝いたします。有難うございました。

計報

理事・有坂龍煌事業局長が、五月十四日(金)十四時頃急逝されました。享年55歳。惜しみても余りある方。あゝ何たる事ぞ!! 未だに信じられません。本会創立30周年記念の会の「会場探り」から当日の盛り上げまで、全身全霊を抛って務めて下さいました。その功績に心から感謝申し上げます。衷心よりご冥福をお祈りします。